

長久手  
キャンパス

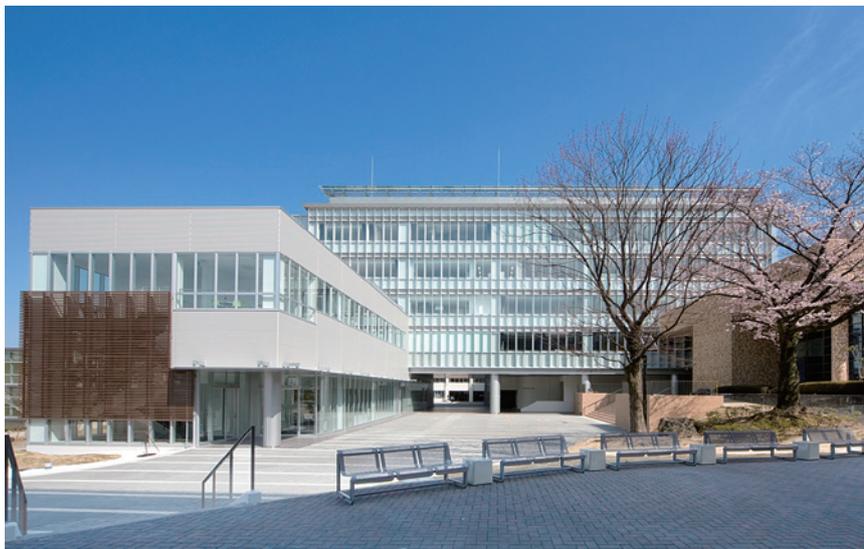
# 11号棟と陶芸室が完成

大学の学部再編に伴い、長久手キャンパスの新しい顔となる11号棟を、キャンパス入口の正面に建設しました。全面ガラスのカーテンウォールは透明感のある開放的なデザインとし、学生達の活動の様子が伺える、開かれた長久手キャンパスを象徴する建物となっています。

1階部分には通り抜けのできる広いピロティを設け、学生の交流の場を形成。また、隣接する図書館や2号棟への連絡通路および4号棟・アネックス・研究棟へ続く広場を併せて整備し、11号棟を通じてキャンパス全体を回遊できる設計となっています。

## 機能的な構成と憩いの空間

11号棟は、福祉貢献学部・人間情報学部・健康医療科学部の演習室、実習室、実験室、検査室等専門的な学習をする施設と、メディアプロデュース学部の映像学習や講演・演劇も行えるミニシアター及びコミュニケーション・コラボレーションセンターと体験型学習の場であるアクティブ・ラーニングスタジオ等の施設から構成しています。これら多種多様な用途を持つ施設は、利用者の動線、機能に配慮した設計になっています。



11号棟南側外観  
右は図書館

|      |                |
|------|----------------|
| 地下1階 | 福祉多目的実験室       |
| 1階   | ミニシアター         |
| 2階   | 福祉プレイルーム       |
| 2階   | 2階聴覚情報実験室(防音室) |



地下1階は、福祉貢献学部の実験室、演習室、面接・ゼミ室等を配置。高低差が大きく起伏に富んだ敷地形状を利用し、地階でありながら自然採光を十分に確保した設計としています。

1階は、キャンパスのメイン動線にあるピロティと図書館前広場に面して、ミニシアター、福祉プレイルーム、コミュニケーション・コラボレーションセンター、アクティブ・ラーニングスタジオ等を配置。ピロティはミニシアターの外部ホワイエとして利用するなど、図書館前の広場として学生のコミュニケーションの場を形成



しています。182席(固定134席、移動48席)を持つミニシアターは、適正な遮音性と音響性能を確保し、映像学習、講演、演劇等の利用が可能な施設となっています。

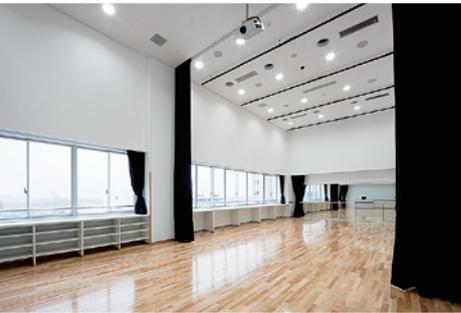
アクティブ・ラーニングスタジオは、活動内容が外から分かるように全面ガラス貼りの仕様とし、開放的な施設となっています。福祉プレイルームは、幼児の行動を観察し学習するため、床は床暖房を設置した天然木のフローリング敷きとし、内装は木を主体とした材料を選定し、柔らかく暖かみを感じられる仕様としています。また、福祉



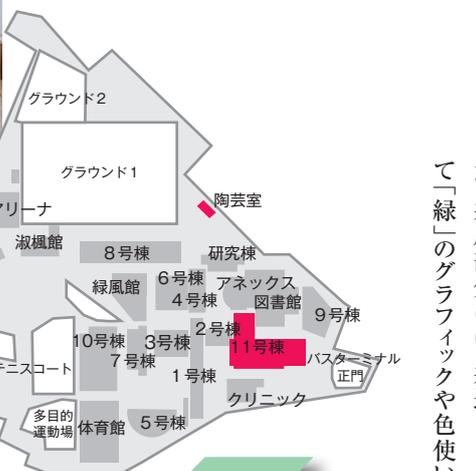
プレイルームは、愛知淑徳職場内保育室(A5保育室)を兼ね、学生や教職員の福利厚生施設としても活用します。

2階は、人間情報学部の実験室や演習室と、図書館及び2号棟への連絡通路、4号棟・アネックス・研究棟前広場につながる出入口を配置しています。3D設計演習室・3D計測実験室やVR実験室、聴覚・視覚情報実験室、高次脳情報処理実験室等、人間の特性を研究する施設を設置しています。また、隣接する既設校舎棟への接続階となっているため、各室のセキュリティを個





|               |                |
|---------------|----------------|
| 3階 健康栄養系実習室   | 3階 聴覚検査室 (防音室) |
| 5階 健康スポーツ系実習室 | 4階 眼底検査室       |
| 陶芸室           |                |



別に、廊下の足音に配慮してタイルカーペットを敷く等の配慮をしています。

3～5階は、健康医療科学部の実習室、訓練室、検査室等を配置しています。言語聴覚学専攻の聴覚検査室は、研究のための適正な防音・遮音性能を確保し、視覚科学専攻の視野検査室や視力検査室等は、検査・実習内容に伴って内装の色を変えています。スポーツ・健康医科学科の健康スポーツ系実習室はダンス等の運動も可能なよ

### 機能と環境の調和

1階のミニシアターは、他の諸室とは異なった非日常的で重厚な空間を演出しています。吸音などシ

うに、下階への影響を考慮して、適正な遮音性能を確保しています。また、西面に学生ラウンジを設け、学生のくつろぎや学習のスペースを用意しました。

陶芸室は、電気炉室を併設し、一連の陶芸学習を行える施設となっています。

断熱性能の向上や自然エネルギーの積極的利用として、屋上緑化や太陽光パネルを備えました。外装には木質系ルーバーを一部に用いて、キャンパス内の歴史ある建物とも融合するように、長久手キャンパスの調和を図っています。また、共用部分には、共通カラーとして「緑」のグラフィックや色使いをデ

ザインに採り入れていきます。学習の場であるキャンパス内の一角に視覚的に「緑」を取り込むことにより、学生にとっても癒しとなる空間づくりを意図しました。

緑多い長久手キャンパスの施設として、自然をより身近に感じるデザインであり、自然への関心、ひいてはエコ学習を啓発する建物として設計しています。

### バリアフリー化の推進

従前に建設された施設については、障がい者への配慮が十分になされていないとは言えませんでした。

11号棟の建設に際しては、外構工事を含めて、バリアフリー化を推進する計画とし、11号棟のエレベータを介して、1・2・3号棟の2、3、4階へ、また、11号棟の2階から、4号棟1階・6号棟2階・研究棟1階・図書館2階へなど、接続に段差がないように配慮し、従来、車椅子では行き来できなかった校舎への移動を可能としました。

今後もさらなるバリアフリー化を推進していきたいと考えています。

- 健康環境系実習室●
- 健康スポーツ系実習室●
- 健康医科学系実習室●
- 視覚科学多目的実習室●
- 健康心理系実習室●
- 視力検査・コンタクト実習室●
- 言語聴覚学多目的実習室●
- 健康栄養系実習室●
- 成人言語・嚙下訓練室●
- 聴覚検査室●小児集団言語訓練室●
- 3D設計演習室・3D計測実験室●
- 視覚情報実験室●
- 多目的実験演習室●
- 高次脳情報処理実験室●
- ユーザビリティ実験室●VR実験室●
- ピロティ●
- ミニシアター●
- 福祉プレイルーム●
- コミュニティ・コラボレーションセンター●
- アクティブ・ラーニングスタジオ●
- 福祉多目的実験室●
- 福祉多目的演習室●
- 福祉共同研究室●福祉面接・ゼミ室●

| 11号棟 建築概要                           |
|-------------------------------------|
| 建築面積●1,247.25㎡ 延べ面積●5,942.42㎡       |
| 構造●鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造                 |
| 階数●地下1階、地上5階                        |
| 建物高さ●GL+27.87m                      |
| 主な仕上●                               |
| ●屋根：コンクリート直均し+アスファルト防水+断熱材+押えコンクリート |
| ●外壁：押出成形セメント板T60+フッ素樹脂塗装            |
| ●軒裏：アルミスバンドレル+フッ素樹脂塗装               |

| 陶芸室 建築概要                       |
|--------------------------------|
| 建築面積●98.00㎡ 延べ面積●98.00㎡        |
| 構造●鉄骨造 階数●地上1階                 |
| 建物高さ●GL+3.80m                  |
| 主な仕上●                          |
| ●屋根：耐火デッキプレート+断熱材+塩化ビニル樹脂シート防水 |
| ●外壁：押出成形セメント板T60+フッ素樹脂塗装       |
| ●軒裏：ケイカル板+塗装                   |



# 大学5号館と 中高プール・武道場が完成

## ●大学5号館

5号館は、2010年度の学部再編に向け、星が丘キャンパスの新たな顔となる校舎です。大学の理念「違いを共に生きる」のもと、「異なる価値観を交換し合うことによって新しい価値観を生み出す場」として、現代的でアクティブな大学のイメージを具現化する空間づくりを目指しました。5号館の設計方針は右の通りです。

- 1) キャンパスの拠点となり、コミュニケーションを誘発する校舎
- 2) 地球環境に配慮し、誰にもやさしい校舎
- 3) 災害に強く、安心して学生生活を過ごせる校舎
- 4) 耐久性があり、維持管理がしやすい校舎

### 各校舎がつながる建物の配置

渡り廊下で各校舎と接続することにより、回遊動線をつくり、丘陵地である星が丘キャンパス内の移動の利便性を高め、校舎間の連携を

### 分かりやすい施設構成

校舎は6階建てとし、隣接する1号館と連携を図りやすい構成と

高めるよう、キャンパスの中心となる位置に計画しました。

向けて諸室を設け、各階で回遊できる明快なプランです。階段は自然光が入る明るい空間とし、移動

がしやすいよう配慮しました。インテリカラーを採り入れていきます。

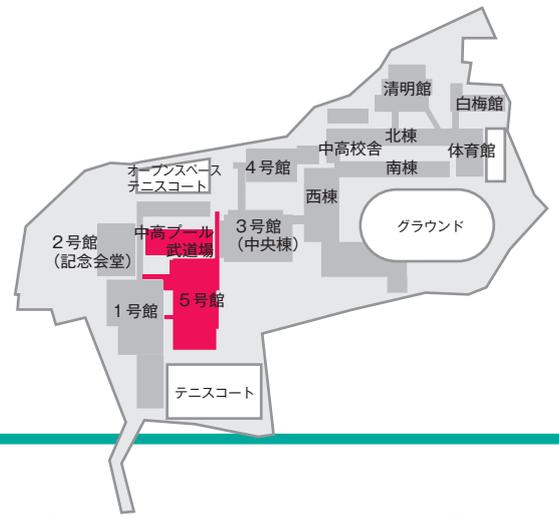
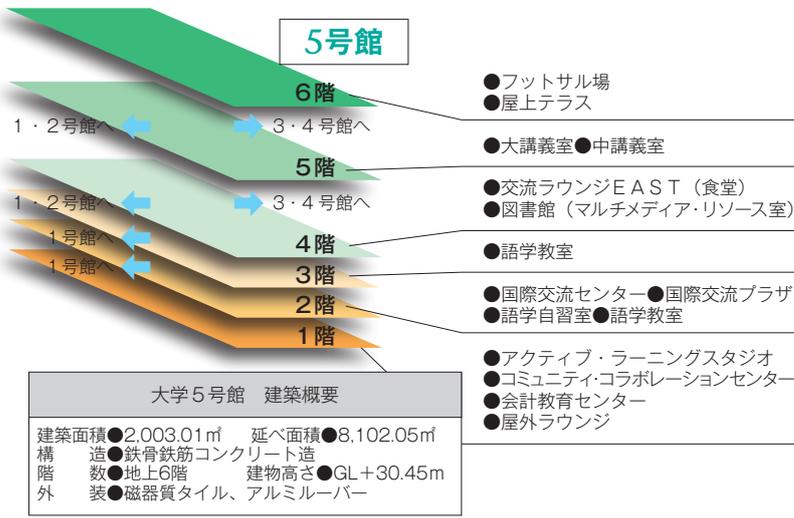
1階は会計教育センターとコミュニケーションセンター、アク

ティコラボレーションセンター、アク



|                        |                          |                               |
|------------------------|--------------------------|-------------------------------|
| 5号館南側外観<br>左は1号館       |                          | 1階<br>エントランス                  |
| 2階<br>国際交流<br>センターラウンジ | 2階<br>国際交流<br>プラザ        | 1階<br>アクティブ・<br>ラーニングスタジオ     |
|                        | 5階<br>大講義室               | 2階<br>語学教室                    |
| 3階<br>語学教室             | 4階<br>交流ラウンジ<br>EAST(食堂) | 4階<br>図書館 (マルチメディア・<br>リソース室) |
|                        |                          | 6階<br>フットサル場                  |





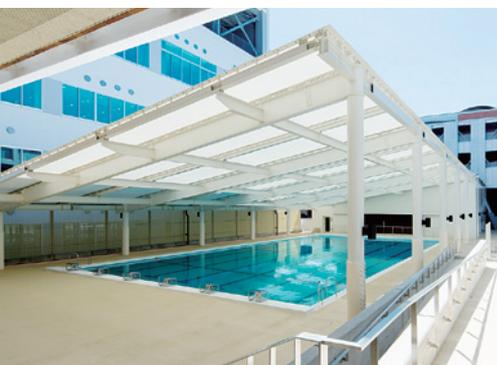
## ●中高プール・武道場

中高プール・武道場は、大学5号館と同時に設計・施工を行い、既存の50m屋外プールを取り壊し、その跡地である約900㎡のエリアをベースに建設しました。中高エリアのアメニティ向上、新たな活動の場となる施設を目指して計画したものです。

四周を校舎に囲まれているため、閉鎖的にならないよう、光が入るように配慮しました。武道場とプールを統一感のある外観とし、高さ約3~7mの片勾配の大屋根に覆われた一体の建物としました。

改築後のプールは25m×6コースとなります。プールを覆う屋根は自然光を透過するテント膜で、雨天時も使用可能です。また昇温設備を新たに設け、従前より長い期間の使用を可能としました。

| 中高プール・武道場 建築概要 |                     |
|----------------|---------------------|
| 建築面積           | ●839.46㎡            |
| 延べ面積           | ●885.58㎡            |
| 構造             | ●鉄骨造                |
| 階数             | ●地上1階               |
| 建物高さ           | ●GL+6.7m            |
| 外装             | ●テント膜屋根、押出成型セメント板塗装 |



**使いやすい建物配置**

プールを東、武道場を西側に配置し、3号館(中央棟)内にあるプール更衣室との行き来がしやすい配置としました。

水泳学校、武道場、プールへの動線は分離し、衛生面、安全面に

**一体感のあるデザイン**

プール屋根には、透光率の高いテント膜を使用し、昼間は自然

光に照らされた明るい空間となるよう計画しました。

武道場は、外壁は押出成型セメント板、屋根を金属折板葺とし、プールと一体感のあるデザインとしています。

しました。アクティブ・ラーニングスタジオの南面はフルオープン扉を設け、屋外ラウンジと一体の空間として、多目的に使用できるように計画しました。

2・3階は、国際交流センターです。長久手キャンパス9号棟に設置してある語学教育用施設・設備と同等のものを設けました。3階には、同時通訳ブースを備えた語学教室を設けています。

4階は食堂(交流ラウンジEAST)と図書館があります。食堂の席数は約500席で、食堂の南側には、コーナーウィンドウを配置し、眺

望の良い開放的な空間としました。5階は350席の大講義室を1室と、160席の中講義室を2室に設けています。

最上階の6階には屋外テラスとフットサル場(24m×15m)を設けました。フットサル場は夜間照明を備えた全天候型屋外運動場です。北側のオープンスペースを見渡せる場所にあり、屋外の運動場としての一体感が生まれるように計画しました。

建物の外観デザインは、シンプルでありながら、現代的なイメージを感じるものとなりました。眺望が良く開放感のある空間とするため

**環境への配慮**

東西面は、磁器質タイル張りとしています。このタイルは、表面に凹凸が施されており、外壁に照射される太陽光を天空へ反射し地表面に熱を与えない、環境に優しい材料です。

南面には、アルミ製の横ルーバーを設置しています。このルーバーは、夏は南からの強い日射を遮ること

で熱負荷を軽減し、冬は自然光を室内へ導く効果を持っています。

窓ガラスはペアガラスとし、断熱性能の高い建物としています。6階フットサル場の屋根にはソーラーパネルを設け、発電容量10kWの太陽光発電設備を設けています。

**安全な建物の構造**

建物の構造は鉄骨鉄筋コンクリート造です。5階大講義室の柱のない大空間を実現するために、一部鉄骨造を採用しています。建物の形状をシンプルにし、周囲に耐震壁をバランス良く配置することにより、地震に対し安全な構造になっています。